

指定管理者評価シート

事業名	札幌市民交流プラザ運営管理費	所管課(電話番号)	市民文化局文化部文化振興課(211-2261)
-----	----------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市民交流プラザ	所在地	中央区北1条西1丁目
開設時期	平成30年10月	延床面積	37,332㎡
目的	文化芸術活動及び生涯学習の振興並びに人々の来訪及び交流の促進を図り、もって市民の創造性を育むとともに、市民生活の質の向上を実現するほか、地域のにぎわいの創出に寄与することを目的とする。		
事業概要	札幌文化芸術劇場等、施設の管理運営。文化芸術振興のための主催事業の実施。		
主要施設	札幌文化芸術劇場、札幌文化芸術交流センター、札幌市図書・情報館(※教育委員会の直営)		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団		
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日		
募集方法	非公募 札幌市民交流プラザは様々な文化芸術に触れる機会の提供やアートマネジメント人材の育成などを担う施設であり、また、本市の文化芸術施設間の連携の中心拠点となり、幅広い分野の事業展開を行う札幌文化芸術交流センターは、文化芸術施策の一体的な推進を図るため、市内各文化芸術施設との一体的管理が必要である。また、スタッフの人材育成については、長期的に行っていく必要がある。さらに、設置目的に沿った運営を行っていくためには、札幌市による指定管理者への継続的かつ積極的な関与が必要であることから、非公募とした。		
指定単位	施設数: 1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務		
3 評価単位	施設数: 1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和3年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
	▽ 管理運営に係る基本方針の策定		A B C D

(1)統括管理業務

▼ 「文化芸術活動及び生涯学習の振興並びに人々の来訪及び交流の促進を図り、もって市民の創造性を育むとともに、市民生活の向上を実現するほか、地域のにぎわいの創出に寄与する」というプラザの設置目的に基づき、以下の6つの基本方針を策定した。これを基に、当財団だからこそ実現可能な主催事業や当財団が管理運営を行う他施設との連携事業などを通じて、市民の多様なニーズを捉えたオリジナリティに溢れた施設運営に取り組んだ。

- ① 良質かつ多彩な文化芸術の提供と北海道発の文化芸術の創造
- ② 文化芸術の水準を高める拠点としての役割
- ③ 今後の文化芸術を担い、支える人々の育成
- ④ すべての人々が文化芸術を享受できる開かれた施設
- ⑤ あらゆる人々がつながり、交流するにぎわいの空間
- ⑥ 安全・安心・快適な施設環境の提供

▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

▼ 札幌市の公の施設であることに鑑み、公平性を重視した運営を行うため以下の方針を策定し、実施した。

- ① 公開抽選による施設申込
利用月13か月前の一斉受付による申込受付
- ② 随時予約による施設申込
一斉受付終了後、空き施設を先着順で受付
- ③ 優先受付による施設申込
長期の準備が必要かつ大規模な事業に限り、24か月前の受付

▼ 特定団体の専有を防止し、多くの利用者への平等な利用を実現するため、連続利用を原則7日以内に制限している。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

第2期指定管理期間の市民交流プラザの管理・運営を実施するに当たり、札幌市民交流プラザの設置目的を実現していくための基本指針に沿って運営することができた。

施設の空き状況等について、電話での問い合わせ対応やホームページで常時確認可能な状態とすることで、平等かつ公平な利用機会を広く市民に提供した。

令和3年度においても新型コロナウイルスの影響による施設利用の取りやめが相次いだことから、迅速な還付手続きなどを行うとともに、空いた施設については新たな利用者が予約しやすいよう努めた。

6つの基本方針に基づき、人々に広く開かれた文化芸術施設として、平等性・公平性を重視し、施設利用者への丁寧な対応、施設の利便性向上に努めている。

利用者や運営協議会で情報共有を行っており、市民サービスや管理水準の維持向上に努めている。

新型コロナウイルス感染症対策として定期的な換気を行いつつ、省エネルギーの促進や環境に配慮した取組を行っている。

以上のとおり、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。

▼「札幌市環境基本計画」に順じ、環境保護、コストの縮減、職員への環境意識の徹底に努めた。

具体的には、照明に関して、設備員との打合せを密にし施設貸出時間外の点灯を必要最小限に抑え、全館の照明スケジュールも定期的に見直すことや、利用後の点検などで節電に努めた。

また、空調(換気を含む)については、貸出時間外の施設も温湿度の一定程度の維持や感染症対策のため、稼働は必要ではあるものの、設定を間欠運転(稼働・停止を一定時間毎に繰り返す)とすることで、省エネルギーとの両立を図った。

▼札幌市環境マネジメントシステムに則り、エネルギー等の使用実績を集計し、省エネルギーの推進及び温室効果ガスの排出抑制に取り組んだ。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

▼ 市民交流プラザ事業部長(館長)を施設の統括責任者として配置している。

また、各課で行う事業特性や業務量を考慮し、適切な人員配置を行い、安定的に運営を行った。

▼ 基礎的・専門的知識の向上のため、以下の職員研修を実施した。

・4月 新規採用職員研修
個人情報保護・セクシャルハラスメント防止研

修

・7月～8月 新任課長職・新任係長職研修

・2月 メンタルヘルス研修

・3月 普通応急手当講習

・2～3月 管理職マネジメント研修
(個人情報保護・情報セキュリティ・SNS

のリスクを知る)

コンプライアンス研修

(個人情報の扱いなど情報セキュリティを

含む)

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

設備員との連携を更に密にし、都度適切な対応を検討した結果、エネルギーの消費を最小限に抑えることができた。引き続き、職員の意識を高め、省エネルギーの促進に努めたい。

エネルギー等の使用実績を基に空調の運転時間を短縮するなど、省エネルギーの推進及び温室効果ガスの排出を抑制することができた。

業務の実態に応じた人員配置や増員を行い、組織体制の適正化に努めた。

また、各従事者の能力向上および職務環境整備のために多様な研修を実施し、施設の安定的な運営体制づくりに資することができた。

▼ 財団管理の各施設をネットワークで結び、共用のグループウェアソフトを活用することで、迅速かつ効率的な情報共有・意思疎通を図っている。

また、財団共用の財務・会計システム利用により、予算執行状況の把握・各種伝票の起票を効率的に行っている。

▼ 事業部内では職員だけではなく、清掃・警備・設備・舞台技術等の常駐委託業者とも上記グループウェアソフトを活用し、情報共有・連絡伝達を行っている。

情報共有の媒体を一元化することで、利用者・来館者への迅速かつ正確な対応に繋げている。

▼ 各常駐委託業者と日常的に綿密な連絡体制を敷くことで、業務中に発生した問題等は速やかに報告を受け、対処を行った。

また、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染対策においても綿密に連携し、徹底した感染防止体制を敷くことで、安全・安心に利用できる施設となるよう努めた。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼ 業務仕様書に基づき、安全な施設運営を行うために必要な専門性を有する人材の確保、及び適正な業務履行の徹底を要請した。

委託者側、受託者側双方に責任者を置き、常に業務の実施状況を共有したほか、受託者より提出を受けた業務完了報告書による履行確認を行った。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 (R3.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の施設の利用状況について ・施設利用に伴うアンケートの集計結果について <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止</p>
第2回 (R3.9)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用状況について(令和3年4月～8月) ・施設利用に伴うアンケートの集計結果について <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面開催</p>
第3回 (R3.12.20)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用状況について(令和3年4月～11月) ・施設利用に伴うアンケートの集計結果について ・施設利用の促進・利便性向上の取組について <ul style="list-style-type: none"> ①劇場座席の抗菌加工について ②hitaru-wifiの整備について ③クリエイティブスタジオ紹介映像について

日常的な情報共有を迅速・正確に行うことで、来館者へ適切な対応を行い、ひいては市民へのサービス向上へ繋げることができた。

また、新型コロナウイルス感染対策においても、各常駐委託業者と綿密な連携をとることで、引き続き利用者が安全・安心に利用できる施設運営を実現させることができた。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、書面開催となる回もあったものの、施設の運営状況や利用促進の取組について、有識者等の外部委員より専門的見地から助言を得たり、有益な情報を共有したりすることで、施設の適切な運営や利用促進、利便性の向上に繋げることができた。

第4回 (R4.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用状況について(令和3年4月～令和4年2月) ・施設利用に伴うアンケートの集計結果について ・図書・情報館の取組について <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面開催</p>
---------------	---

<協議会メンバー>

- ・地元自治会： 中央地区町内会連合会総務部長
- ・利用者： 音楽事務所代表
- ・有識者： 大学教授
- ・行政： 札幌市市民文化局文化部長
札幌市教育委員会 図書・情報館長
- ・指定管理者： 市民交流プラザ館長
事業推進担当部長

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとに区分した経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。
- ▼ 現金等の取り扱いについては、現金取扱要綱を策定し、分任出納員として任命された職員による厳正な管理を行い、財団の内部監査や市による業務検査などで定期的な確認作業を行った。
- ▼ 現預金の入出金については、複数の職員による相互確認を実施し、不適切な処理が行われないようチェックした。

複数人体制での現預金の取扱や内部監査等の実施により相互牽制を行うことで、適正かつ透明性の高い資金管理を行うことができた。

▽ 要望・苦情対応

- ▼ 要望・苦情は発生次第速やかに対応を検討し、担当する部署及び館長とも共有した上で、対応を行った。
また、利用者・来館者から寄せられた要望・苦情については関係する常駐委託業者とも情報共有を行い、利用サービスの向上に繋げた。
- ▼ ホームページにお問い合わせフォームを設け、問い合わせや要望・苦情が寄せられた際には、図書・情報館やその他の関係部署を交え対応を検討し、電子メール等で迅速な回答を行うとともに、今後の利用サービスの向上に繋げた。
- ▼ 市の関わりが必要と考えられる要望・苦情については迅速に市へ情報提供を行った。

要望・苦情の対応事例を速やかに内部共有することで、管理運営上の課題の発見や運営水準の向上に反映させる契機とすることができた。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

	<p>▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理業務に関する諸規程 ・ 文書管理簿 ・ 各年度の事業計画及び事業報告書 ・ 収支予算・決算に関する帳簿 ・ 金銭出納に関する帳簿 ・ 物品の受払いに関する帳簿 ・ 各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類 <p>▼ セルフモニタリングについては、来館者、利用者、主催事業の参加者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、半年ごとに業務検査や財務検査を行い、業務に関する自己チェックを実施した。</p> <p>▼ 札幌市への事業報告や事業評価等については、協定の定めに応じて提出をした。</p>	<p>業務の実施状況や利用者等の意見を適切に記録・保管することで、照会等への対応を円滑化したほか、サービス水準の維持・向上のために活用することができた。</p>																					
<p>(2) 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)</p> <p>▼ 適正な内容で36協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しを行い、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。</p> <p>▼ 就業規則を含む例規集は、グループウェアソフトにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。</p> <p>▼ 毎月の給与の計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務部署を通じて社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。</p> <p>▼ 当財団衛生委員会要綱に準じ衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康維持、職場環境の向上に努めている。</p> <p>▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の事柄も含めた個別相談に応じる体制を採っている。</p> <p>▼ 労働環境を向上させるため、年5日以上のある年次有給休暇の取得徹底や、業務の見直しなどによる時間外勤務の削減に努めた。</p> <p>▼ 新型コロナウイルス感染対策の一環として、引き続き公共交通機関による出勤時の混雑回避のための時差出勤や、職員の接触機会削減のための在宅勤務を実施した。</p> <p>▼ 財団における勤怠管理について、従来の紙媒体からシステムによる管理へ移行し、出退勤の時間や時間外勤務の状況等、各職員の正確な勤務状況の把握が可能となった。</p>	<p>労働関係法令順守のため、管理職を中心に長時間労働に関する各職員の状況把握に努め、業務効率化や業務分担の見直しなどにより、時間外勤務の削減を図ることができた。また、年次有給休暇についても全職員が5日以上取得できた。</p> <p>衛生委員会では、産業医立会いによる職場巡視を実施し、職場内での事故防止・安全面の維持向上を図ることができた。</p> <p>また、財団全体で勤怠管理をシステム化したことで、管理職・各職員による勤務状況の適切な把握や、管理の効率化を図ることができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">36協定の適正な締結、衛生委員会の設置、産業医や顧問弁護士の導入を行うだけではなく、時間外勤務の抑制や年次休暇の取得促進が実現する等、それら制度・期間が実効的に機能していると認められる。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">新型コロナウイルス感染症対策として、時差出勤や在宅勤務を実施するなど、職員の健康に配慮した労働環境の整備を行った点は評価できる。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">また、勤怠管理についてシステム管理を導入し、より正確な勤務状況を把握できるようになったことは職員の適正な労働環境の整備に有効と認められる。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">業務の性質上、時期による業務量の差は生じるものの、財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、さまざまな取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	36協定の適正な締結、衛生委員会の設置、産業医や顧問弁護士の導入を行うだけではなく、時間外勤務の抑制や年次休暇の取得促進が実現する等、それら制度・期間が実効的に機能していると認められる。				新型コロナウイルス感染症対策として、時差出勤や在宅勤務を実施するなど、職員の健康に配慮した労働環境の整備を行った点は評価できる。				また、勤怠管理についてシステム管理を導入し、より正確な勤務状況を把握できるようになったことは職員の適正な労働環境の整備に有効と認められる。				業務の性質上、時期による業務量の差は生じるものの、財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、さまざまな取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。			
A	B	C	D																				
36協定の適正な締結、衛生委員会の設置、産業医や顧問弁護士の導入を行うだけではなく、時間外勤務の抑制や年次休暇の取得促進が実現する等、それら制度・期間が実効的に機能していると認められる。																							
新型コロナウイルス感染症対策として、時差出勤や在宅勤務を実施するなど、職員の健康に配慮した労働環境の整備を行った点は評価できる。																							
また、勤怠管理についてシステム管理を導入し、より正確な勤務状況を把握できるようになったことは職員の適正な労働環境の整備に有効と認められる。																							
業務の性質上、時期による業務量の差は生じるものの、財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、さまざまな取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。																							
<p>(3) 施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">関係法令を遵守し、点検について</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	関係法令を遵守し、点検について															
A	B	C	D																				
関係法令を遵守し、点検について																							

	<p>▼ 拾得物及び遺失物については、創世スクエア管理組合と情報共有を図り、利用者からの問い合わせに対して即時に対応できるよう努めている。なお、貴重品や、一定の保管期間が経過しても引き取りのない拾得物については最寄りの警察署または交番に引き渡し、適切な処理に努めている。</p> <p>▼施設の環境の改善と安全性向上のため、定期的な巡回や点検を行っている。特に、施設内の共用スペースにおいては多数の来館者が往来するため、防犯カメラを設置・運用することで、非常時に的確・迅速に対応ができるよう備えている。また、より一層の防犯・安全性向上のため、4階の防犯カメラ2台について、従来の角度固定式のものから可動式のものへと交換した。</p> <p>▼来館者の利便性向上のため、3階の館内誘導サイン(クリエイティブスタジオ・練習室・控室)を増設した。</p> <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>▼ プラザ内の各施設(劇場、センター、諸貸室)において、計画的な清掃・警備を行い、美化・安全確保に努めた。また、備付備品や貸出備品についても、定期的に点検を行い、常に利用者が最良の状態で使用できるよう維持・管理を行った。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、貸出施設や備品、利用者用ロッカー、エレベーター内操作盤等の消毒・換気には一層配慮して対応するとともに、令和2年度実施の託児室に加え、劇場客席(ひじ掛け・背もたれ木部)・手すりの抗ウイルスコーティング加工を実施し、安全性の向上に努めた。</p> <p>▼施設設備については、日常点検だけではなく、不具合が発生した際にも早期発見・対応が可能なように設備保守の常駐委託事業者と密に連携を図った。</p> <p>▼施設への搬出入用駐車場については、運用マニュアルを作成して管理運営を行い、警備員との連絡を密にして駐車場の利用者が安全かつ円滑に駐車できるように努めた。</p> <p>▽ 防災</p> <p>職員および委託事業者の防災意識の向上のため、10月に主に火災を、1月に主に地震を想定した防災訓練を行った。</p> <p>訓練では、視覚的な記憶の定着を狙い、救助袋や消火器などの器具の使用方法や、避難経路を確認する映像を視聴するという手法を取り入れたほか、保守業者の方を招き、地震発生時のエレベーターの動作を模擬体験するなど、新たな取り組みを行った。</p>	<p>利用者が安全かつ快適に利用できる環境を整備し、施設に関する異変等には速やかに対応するとともに、事後の対応においても原因究明を徹底して再発防止に努め、施設の維持管理を行うことができた。</p> <p>防災マニュアルをもとにした基本的な対応の確認に加え、映像の視聴や模擬体験など、記憶に残りやすい訓練を通して、有事の対応に備えることができた。</p>	<p>し、万が一に備えても適切に実施している。</p> <p>また、さっぽろ創世スクエア管理組合との連携・調整に取り組んでいる。</p> <p>加えて、防犯カメラを高性能なものに交換することは来館者の安全性向上に、館内誘導サインを増設することは利便性向上にそれぞれ資すると認められる。</p> <p>以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>
(4)事業の計画・実施効果	▽ 札幌文化芸術劇場に関する事業		A B C D

▼創造事業

hitaruを「創造の場」として、地元で活躍する様々な実演芸術団体との連携のもと札幌発の実演芸術公演を展開し、市民に質の高い文化芸術に触れる機会を提供した。令和5年度に本格始動する北海道発のバレエ創造事業「hitaruバレエプロジェクト」のプレ公演として「白鳥の湖」を実施。また令和元年度より実施してきたセルフプロデュース事業の集大成公演として「Creative Opera Mix」を劇場を会場に開催したほか、令和5年度に開催するhitaruオペラプロジェクト「フィガロの結婚」キャストオーディションを実施した。

○hitaruバレエプロジェクト プレ公演「白鳥の湖」
(公益財団法人日本バレエ協会との共催事業)

≪関連事業≫

- ・出演者オーディション
- ・有料アーカイブ配信

○Creative Opera Mix Vol.3 MASTER PIECES

≪関連事業≫

- ・有料アーカイブ配信

○hitaruオペラプロジェクト「フィガロの結婚」キャストオーディション

「白鳥の湖」では地元の人材を結集し、hitaruの舞台機構を存分に活用した本格的なグランドバレエを実施。市民の鑑賞機会を提供するとともに、地元ダンサーやスタッフの育成にも寄与した。作品への理解や興味を深めてもらえるよう、札幌大谷大学教授によるレクチャーなど普及啓発にかかる関連事業も併せて実施した。

「Creative Opera Mix」では、札幌市の第一線で活躍する多様なジャンルの芸術家に表現の場を提供することで新しいコラボレーションを生み出すとともに、SCARTSアートコミュニケーション事業と連携して制作過程の一部公開等を行った。「白鳥の湖」「Creative Opera Mix」では有料アーカイブ配信を行い、コロナ禍における芸術文化の鑑賞機会を新たに創出した。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部の事業は中止となったものの、多様な事業が計画・実施されている。

創造事業では、「hitaruバレエプロジェクト」のプレ公演として「白鳥の湖」を企画し、オーディションで選ばれた北海道にゆかりのあるキャストでの公演を行い、今後本格始動する北海道発のバレエ創造事業に向けた計画を確実に進めている。

鑑賞事業では、北海道出身のトップバレエダンサー熊川哲也氏による大型バレエ公演を行うなど、質の高い文化芸術の鑑賞機会を提供した。また「hitaruのひとつき」は、料金を低価格に設定することで、実演芸術鑑賞の裾野拡大に努めた。

普及・育成事業では、札幌大谷大学と連携し、若い世代が文化芸術

▼ 鑑賞事業

多面舞台と最新の舞台機能を生かし、世界水準のオペラ、バレエ、ダンスなど本格的な舞台芸術による「鑑賞の場」を多彩な内容で市民に提供した。また、親しみやすい内容の公演を低廉な入場料で開催し、幅広い層の市民に実演芸術の魅力を伝えた。

○ PLAZA FESTIVAL 2021 Daiwa House® PRESENTS 熊川哲也 Kバレエ カンパニー Autumn Tour 2021「シンデレラ」(2公演)

《関連事業》

・クラスレッスン見学会

○Noism Company Niigata ストラヴィンスキー没後50年「春の祭典」他

○ hitaru のひととき

・「Mi Tierra Andalucía ～私の地 アンダルシア～」

《関連事業》

・有料アーカイブ配信

・「ANUNA 神秘のケルティック・コーラス」(※新型コロナウイルスの影響により中止)

・「VR能 攻殻機動隊」

○文化庁 大規模かつ質の高い文化芸術活動を核としたアートキャラバン事業2021「グランドオペラフェスティバルin Japan モーツァルト「魔笛」

○ 共催事業の誘致

これまで札幌での開催が少なかった魅力ある大規模公演等の誘致に向けた取り組みを進めた。

①ミュージカル「モーツァルト！」(令和3年5月14日(金)～17日(月))

入場者数:5公演計7,215人

②第二回さっぽろ落語まつり(令和3年5月28日(金)～30日(日))

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年5月29日(金)・30日(土)・31日(日)から延期。

入場者数:6公演計2,940人

③秋の特別公演 古典への誘い(令和3年9月4日(土)、5日(日))

入場者数:2公演計2,262人

④ミュージカル「マイ・フェア・レディ」(令和3年12月17日(金)～20日(月))

※出演者急逝のため、12月19日(日)、20日(月)の2公演は中止

入場者数:3公演計3,975人

⑤劇団四季のアンドリュウ・ロイド＝ウェバー コンサート～アンマスクド～(令和4年2月1日(火)、2日(水))

入場者数:3公演計3,593人

熊川哲也 Kバレエカンパニー「シンデレラ」ではトップクラスの出演者による華やかな舞台を提供した。また日本初の公共劇場専属舞踊団Noism

Company Niigataによる「春の祭典」では、表題作含む4作品を上演し、道内では鑑賞機会の少ないコンテンポラリーダンスの魅力を伝えた。

低料金で気軽に実演芸術に触れてもらうことを目的とした「hitaruのひととき」シリーズでは、1公演が新型コロナウイルスの影響により中止になったものの、スペインのコンクールで日本人男性初の優勝を果たしたフラメンコダンサーSIROCOの北海道初公演や、VR

眼鏡をかけずに仮想現実空間を体感できる世界初の技術による新感覚の舞台公演「VR能 攻殻機動隊」など、話題性の高い多様な舞台公演を開催し、幅広い層の市民が劇場に足を運んだ。

オペラは、プロジェクションマッピングを駆使した演出等話題性の高い宮本亞門演出モーツァルト「魔笛」を上演し、質の高い作品の鑑賞機会を創出した。

共催事業については、新型コロナウイルスの影響もあり、入場者数が伸び悩んだ公演もあったが、これまで札幌での開催が少なかったミュージカル、古典芸能など多彩なジャンルの鑑賞機会を市民に提供することができた。

に触れる機会を創出した。また、舞台技術に関するセミナーを開催し、技術者の技術向上に努めた。

交流事業では、「PLAZA FESTIVAL」を実施し、劇場、図書・情報館、クリエイティブスタジオなど、施設全体を有効活用し、様々なジャンルの文化芸術の創造と鑑賞機会の提供を実現した。

以上により、市民へ多様な文化芸術に触れる機会を提供し、かつ舞台芸術を支える人材育成に努めた点は高く評価でき、本市の要求水準を超える事業を行っている。

▼ 普及・育成事業

先進の舞台芸術を広く市民に紹介するとともに、舞台芸術活動の将来を担う世代の育成を目的に、多彩な芸術文化の提供と、教育的価値の高い事業を展開した。

- 青少年向けバレエ鑑賞事業(配信)
- クリエイティブスタジオ活用事業
- ・シネマシリーズ4 映画へと導く映画(大九明子)(※新型コロナウイルスの影響により令和4年度に延期)
- ・シネマシリーズ5 映画へと導く映画(濱口竜介)
- ・hitaru×SCARTS連携事業 高嶺格「歓迎されざる者～北海道バージョン」
- 《関連事業》
- ・アーカイブ配信
- ・藤田貴大「かがみ まど とびら」
- 《関連事業》
- ・地図のワークショップ+α
- ・All Sapporo professional Actors Selection Vol.3「暴雪圏」
- 札幌大谷大学・札幌文化芸術劇場 hitaru連携事業
- ・アートプログラム2021 第1回 バレエ「シンデレラ」見どころ・聴きどころ
- ・アートプログラム2021 第2回 オペラ「魔笛」見どころ・聴きどころ
- ・アートプログラム2021 第3回 バレエ「白鳥の湖」見どころ・聴きどころ

青少年が人間性豊かな心を育むことを目的として、国内トップクラスの東京バレエ団の公演に市内中学2年生を無料招待する「青少年向けバレエ鑑賞事業」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止を余儀なくされたが、過去のhitaru公演の映像をもとに教材動画を作成し、配信事業へ形を変えて実施した。

「クリエイティブスタジオ活用事業」では、クリエイティブスタジオを会場に話題の映画監督が影響を受けた映画を紹介する「映画へと導く映画」、札幌でのリサーチや対話を通して作品を再構成した高嶺格「歓迎されざる者」、演劇作家藤田貴大による子どもから大人まで一緒に楽しむ演劇作品「かがみ まど とびら」、北海道内外で活躍する俳優やスタッフらによる佐々木譲原作「暴雪圏」等、多彩なジャンルの実演芸術作品を実施し、市民の多様なニーズに応えるとともに、同会場の柔軟性をアピールした。

大学など教育機関との連携事業では、hitaruで実施するオペラ・バレエの内容をわかりやすく解説するレクチャーを札幌大谷大学と連携して企画し、本公演への理解や興味を深める機会を提供した。

▼交流事業

札幌文化芸術劇場 hitaru、クリエイティブスタジオ、札幌文化芸術交流センターSCARTS、札幌市図書・情報館など、さまざまなジャンルの事業展開が可能な市民交流プラザの特性を活かし、多様な市民に参加・交流の場を提供して、多くの市民が文化芸術に触れることで施設のにぎわい創出につながる事業を実施した。

○PLAZA FESTIVAL 2021

- ・Daiwa House® PRESENTS熊川哲也 Kバレエカンパニー Autumn Tour 2021「シンデレラ」(再掲)
- ・札幌爆音映画祭
- ・遠い誰か、ことのありか
- ・++A&T05 キョウドウ体/syn体ワークショップ成果展
- ・「つむぐ-フライヤーでふりかえるhitaruとSCARTSの3年間」アーカイブ展
- ・MORIHICO.マルシェ・ドウ・グルニエ×プラザマルシェ
- ・ひらめくDESIGN～企業のロゴから自社の商品開発まで～

▼ 舞台技術向上に向けた取組

全道の創造型劇場の中核として、舞台技術者の技術・技能の向上や知識・経験の共有を図るため、全道の舞台技術者を対象とした舞台技術セミナーを開催した。

- ①技術セミナーin hitaru d&b Soundscape Presentation(令和3年12月3日(金)) 参加者:36名
- ②第2回札幌文化芸術劇場hitaru 舞台技術セミナー(令和4年3月10日(木)、11日(金)) 参加者:105名

また、高度な舞台機構や音響・照明設備を活用できる本劇場の舞台技術スタッフが他の劇場、音楽堂等及び実演芸術団体等と連携・協力し、地元の文化芸術の水準を高めるための取組として、舞台監督等の技術協力支援を行った。

- ①札幌舞踊会 本部お楽しみ会☆支部・カルチャー発表会(令和3年5月15日(土)、16日(日)) 会場:札幌市教育文化会館 大ホール
- ②ちだとしこバレエスタジオ 第26発表会(令和3年6月4日(金)、5日(土)) 会場:札幌市教育文化会館 大ホール
- ③DANCE STUDIO LoRe 発表会「BON VOYAGE vol.3」(令和3年7月9日(金)、10日(土)) 会場:札幌サンプラザコンサートホール
- ④小林絹恵バレエスタジオ10周年記念公演「眠れる森の美女」(令和3年8月17日(火)、18日(水)) 会場:札幌文化芸術劇場hitaru
- ⑤第15回アンジュバレエスタジオ定期発表会(令和3年9月24日(金)、25日(土)) 会場:帯広市民文化ホール 大ホール
- ⑥小泉のり子バレエスタジオ発表会(令和3年10月9日(土)、10日(日)) 会場:札幌市民ホール
- ⑦2021北海道現代舞踊フェスティバル in さっぽろ(令和3年11月23日(火・祝)) 会場:北海道立道民活動センター かでるホール
- ⑧Farewell2021 くるみ割り人形(令和3年12月16日(木)～18日(土)) 会場:札幌市教育文化会館 大

札幌市民交流プラザのオープン3周年に際し、全館を用いた交流事業「PLAZA FESTIVAL 2021」を開催した。劇場では熊川哲也 Kバレエカンパニー公演、クリエイティブスタジオでは札幌爆音映画祭、図書・情報館ではトークイベント、SCARTSモールではリモート時代のテクノロジーに向き合うアーティストによる展覧会を開催したほか、MORIHICO.プロデュースによるマルシェを開催した。新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、市民が様々な文化芸術に触れることができる場を提供した。

舞台技術セミナーを実施し、舞台技術者の技術・技能の向上や人材の育成に寄与することができた。また、市内・道内の文化芸術団体の公演実施に際して、舞台技術の協力支援を行うことで、公演そのもの、ひいては地元の文化芸術の水準を高める一助とすることができた。

▽ 札幌文化芸術交流センターに関する事業

▼ 文化芸術の普及・発信、にぎわい創出事業

誰もが気軽に文化芸術に触れられる場や機会を創出し、都心部ににぎわいを生み出すような事業を展開した。

また、地元アーティストやアート以外の分野の人材との連携などにより、札幌ならではの特徴的な事業を構築し、札幌の魅力とSCARTSの認知度を高めた。

○ 遠い誰か、ことのありか

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため会期短縮
〈関連プログラム〉

・SCARTS × SIAFラボ アートエンジニアリングスクール

「Backstage Pass to SCARTS / ONLINE」

・アーティストトーク

①クワクポリヨウタ × 岡碧幸、②やんツー × 大橋

鉄郎

・アーティスト × 研究者トーク

クワクポリヨウタ × 渡邊淳司

・キュレーターによるギャラリートツアー

「遠い誰か、ことのありか」／++A&T05「キョウドウ

体／

syn体」

・SCARTSアートコミュニケーター「ひらく」× SIAF部

の

展覧会ガイド

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

○ SCARTSステージシリーズ

・vol.005 ランチブレイクの“アフター”ランチブレイク

・vol.006 大学連携コンサート 北海道教育大学岩

見沢校

「東欧・弦の響きトリオとデュオによるロマ

ン派

～近代の作品を集めて」

・vol.007 劇団千年王国「からだの贈りもの」

・vol.008 大学連携コンサート 札幌大谷大学

「ラテン音楽の調べ」

・vol.009 平原慎太郎ダンス「よるね よるこい よる」

○ hitaru × SCARTS連携事業

高嶺格「歓迎されざる者～北海道バージョン」

〈再掲〉

○ ++A&T SCARTS ART & TECHNOLOGY Project (プラプラット)

・++A&T 04 CoSTEP × SCARTS × 札幌の高校生た

ち

「バイオの大きさ／未来の物語」ワークショップ成

果展

〈再掲〉

・++A&T 05 クワクポリヨウタ × SCARTS × 札幌の

中高生たち「キョウドウ体／syn体」ワークショップ

・++A&T 05 クワクポリヨウタ × SCARTS × 札幌の

中高生たち「キョウドウ体／syn体」ワークショップ

成果展

「遠い誰か、ことのありか」では、他者とのコミュニケーションについて再考を迫られている今日の状況を背景に、テクノロジーを批評的に扱う4名のアーティストの新作による大規模展覧会を実施し、質の高い作品の鑑賞機会を創出した。SCARTSステージシリーズでは大学と連携協定を結び、次世代を担う人材育成に寄与するコンサートの実施、++A&Tでは中高生と作家がワークショップを行うなど、各事業を通してさまざまな文化芸術活動をつなげていく役割を担った。また、連携事業ではMarché de GRENIER(マルシェ・ドゥ・グルニエ)など、普段文化芸術活動に関わりの少ない市民にも参加しやすいイベントを実施し、にぎわいを創出した。新型コロナウイルスの影響により一部の事業が中止になり客席数も制限される中での実施になったものの、オンライン配信等を活用し、SCARTSの認知度の向上に寄与する事業を構築することができた。

- 連携事業
 - ・第50回記念札幌文団協フェスティバル 展示部門
 - ・NoMaps2021
 - ・弦巻楽団×CoSTEP「オンリー・ユー」
 - ・さっぽろアートステージ2021「キッズアートフェス」
〈関連プログラム〉
 - ・ワイヤーでアートしよう！こどもワークショップ
 - ・こどもたちが考えたハンバーガーを映像にする
ワークショップ 新しいハンバーガーを作ろう！
 - ・家にあるいらなくなったプラスチックでつくる
箱庭ワークショップ
 - ・理想のお家をアーティストと一緒につくろう！
お家や庭にほしいものの絵大募集！
 - ・アートボランティアウィーク@SCARTS
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
 - ・Marché de GRENIER(マルシェ・ドウ・グルニエ)
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
- ・SCARTS×SIAFラボ アートエンジニアリングス
クール
 - 〈Backstage Pass〉
 - 「Backstage Pass to YCAM / ONLINE」
 - 「Backstage Pass to SCARTS / ONLINE」〈再
掲〉
 - 「Backstage Pass to NTT ICC / ONLINE」
 - 〈Art Engineer File〉
 - ・彫美連続講座2021〈再掲〉
 - ・第8回 北から暮しの工芸祭
 - ・さっぽろ天神山アートスタジオクロストーク
「パンデミックとアーティスト・イン・レジデンス」
 - ・北海道卒業設計合同講評会2022
- SCARTS×SIAFラボ冬の展覧会2022
「都市と自然とデータとかたち」
〈関連プログラム〉
 - ・ギャラリーツアー
 - ・トークイベント「都市と自然とR&D」
- SCARTSインフォメーションカウンター
- 文化芸術に関する情報発信
- 西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト
- PLAZA FESTIVAL 2021「MORIHICO. Marché de
GRENIER
(マルシェ・ドウ・グルニエ)×プラザマルシェ」〈再
掲〉
- ▼ 文化芸術活動支援事業

市民やアーティスト等の活動活性化やキャリアアップなどを念頭に、文化芸術情報を収集・発信できる場を提供するとともに、文化芸術に関する悩みなどの相談も受け付けた。

また、文化芸術に関わる方々を対象とした講座の開催やアートと人々をつなぐボランティアな活動を支援するなど、札幌で文化芸術活動が行いやすくなるような環境を提供した。

さらに、令和3年度募集分からは、これまで札幌市において実施していた助成金交付事業を引き継いで、新たな制度としてスタートさせた。
- 対面相談サービス

札幌における文化芸術に関わる情報を収集し、インフォメーションカウンターやウェブを通じて広く市民に発信した。対面相談サービスでは、コロナ禍で活動自粛を余儀なくされたアーティストや市民に助成金の情報を提供する活動支援に尽力した。また、

- | | |
|---|---|
| <p>○ SCARTSレクチャーシリーズ
 <SCARTSレクチャーシリーズ>
 ・Vol.6「心に触れる広報術。」
 <バトン ―創造性を刺激する、読書のためのトークセッション>
 ・「20XX年の革命家になるには― スペキュラティブ・デザインの授業」
 ・「法のデザイン 創造性とイノベーションは法によって加速する」
 ・「炭鉱と美術 旧産炭地における美術活動の変遷」
 <forARTIS>
 ・vol.4「確定申告や助成金について知りたい！アーティストのためのお金の知識」
 ・vol.5「作品と制作者の権利を守りたい！アーティストのための法律相談所」</p> <p>○ SCARTSアートコミュニケーション事業
 ・講座 全18回
 ・実践活動
 ・鑑賞レポート</p> <p>○ 公募企画事業
 ・CE:Meets ライブクラフト～ダンボールハウスバトル～
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
 ・三原順の世界展～生涯と復活の軌跡～
 <関連プログラム>
 ・トークイベント「三原順のこぼれを考える」
 ・トークイベント「順さまのワイワイ仕事場（あるいはシュラバ）」
 ・トークイベント「北海道マンガミュージアムを！」
 ・艾沢詳子＋青木広宙 ―PLATFORM
 <関連プログラム>
 ・トークセッション「プラットフォーム上に“たゆたう”オリジナリティ」
 ・ONE～ひとりの女性～
 <関連プログラム>
 ・アーティストトークショー</p> <p>▼ 文化芸術に関する調査研究事業
 文化芸術活動を発展させるうえで欠かせない、国や他都市の動向や先進的な文化芸術活動などに関する基礎的な調査や研究を行った。また、SCARTSにおいて実施してきた事業を中心とした、これまでの取組に関するデータや記録などを、活用しやすい形で整理・保存した。</p> <p>○ 調査研究
 ・つむぐーフライヤーでふりかえるhitaruとSCARTSの3年間
 <関連プログラム></p> | <p>SCARTSレクチャーシリーズでは、対面相談サービスで相談件数の多い広報、助成金、著作権に焦点を当てた講習を行い、実践的な知識を得ることができたと参加者からの高い満足度を得ることができた。文化芸術振興助成金交付事業では、延べ67件の応募の中から特別助成事業2件、一般助成事業14件の計16件を採択し、総額5,390千円の助成金交付を内定とした。</p> <p>調査研究では開館からの歩みをアーカイブ資料の一つである主催事業フライヤーによって振り返る展示を実施し過去の成果を可視化することで、認知度の向上と魅力の発信に寄与した。SCARTSレポートは、SCARTSの足跡</p> |
|---|---|

	<p>・トークイベント「ライブ配信・アーカイブ配信のための著作権セミナー」 ・トークイベント「「つむぐーフライヤーでふりかえるhitaruとSCARTSの3年間」を通して考えるアーカイブ」</p> <p>○ SCARTSレポート</p>	<p>を記録したもので、内容の充実度とデザイン性が高く、各方面から高い評価を得た。</p>																																																														
<p>(5)施設利用に関する業務</p>	<p>▽ 利用件数等</p> <table border="1" data-bbox="383 548 981 1120"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>R2年度実績</th> <th>R3年度計画</th> <th>R3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">劇場</td> <td>件数(件)</td> <td>150</td> <td>127</td> <td>234</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>65,665</td> <td>—</td> <td>195,294</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>58.4%</td> <td>80%</td> <td>79.9%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">クリエイティブスタジオ</td> <td>件数(件)</td> <td>158</td> <td>77</td> <td>230</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>12,043</td> <td>—</td> <td>17,301</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>53.5%</td> <td>75%</td> <td>71.2%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">練習室等</td> <td>件数(件)</td> <td>2,396</td> <td>914</td> <td>3,220</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>16,106</td> <td>—</td> <td>22,086</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>51.8%</td> <td>60%</td> <td>59.7%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">センター</td> <td>件数(件)</td> <td>1,601</td> <td>453</td> <td>1,899</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>54,842</td> <td>—</td> <td>51,005</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>65.4%</td> <td>75%</td> <td>63.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽ 不承認 0件、 取消し217件、 減免2,363件、 還付3</p> <p>▽ 利用促進の取組</p> <p>▼一斉受付実施の告知 ホームページにて、次回の一斉受付の告知を毎月行った。</p> <p>▼クリエイティブスタジオ見学会の告知と実施 舞台技術者同席のもと、年間4回(うち2回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)の見学会を実施し、のべ89人の参加があった。</p> <p>▼練習室・控室の利用促進を図るため、昨年度に引き続きPRチラシを作成し、市内公共施設や創成スクエア管理組合等に配布を依頼し、PRに努めた。</p> <p>▼利用者からのご要望の改善 利用者アンケートに基づき、利用者からのご要望のあった点を共有するとともに、改善に向けて検討を行った。</p>			R2年度実績	R3年度計画	R3年度実績	劇場	件数(件)	150	127	234	人数(人)	65,665	—	195,294	稼働率(%)	58.4%	80%	79.9%	クリエイティブスタジオ	件数(件)	158	77	230	人数(人)	12,043	—	17,301	稼働率(%)	53.5%	75%	71.2%	練習室等	件数(件)	2,396	914	3,220	人数(人)	16,106	—	22,086	稼働率(%)	51.8%	60%	59.7%	センター	件数(件)	1,601	453	1,899	人数(人)	54,842	—	51,005	稼働率(%)	65.4%	75%	63.3%	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による貸室において、新規受付の停止や昨年度からの収容人数の制限、新型コロナウイルス特例還付期間が継続しつつも、劇場・クリエイティブスタジオ・練習室等の稼働率については回復傾向にある。</p> <p>利用者の利便性向上のため、受付カウンターを改修し、対応スペースを増やした。また新型コロナウイルス対策のため受付ブースごとに仕切りを設け、利用者と職員が安心して相談できる仕様とした。</p> <p>さらに、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにオンライン会議目的での利用が増え、インターネット環境の整備について利用者アンケート等で多くの希望が寄せられたことから、会議などで利用されることの多い4階控室に専用wifiを増設するなど、利用のニーズに合わせた改善を行った。</p>	<table border="1" data-bbox="1252 515 1436 548"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>稼働率ならびに利用人数については目標値に届いていないものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により施設の貸出制限を設けたことが要因であり、このような状況下で稼働率が回復傾向にあることは評価できる。</p> <p>また、利用者アンケートの回答を踏まえインターネット環境を整備する等、利用者の利便性向上に努めている。</p> <p>以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>	A	B	C	D
		R2年度実績	R3年度計画	R3年度実績																																																												
劇場	件数(件)	150	127	234																																																												
	人数(人)	65,665	—	195,294																																																												
	稼働率(%)	58.4%	80%	79.9%																																																												
クリエイティブスタジオ	件数(件)	158	77	230																																																												
	人数(人)	12,043	—	17,301																																																												
	稼働率(%)	53.5%	75%	71.2%																																																												
練習室等	件数(件)	2,396	914	3,220																																																												
	人数(人)	16,106	—	22,086																																																												
	稼働率(%)	51.8%	60%	59.7%																																																												
センター	件数(件)	1,601	453	1,899																																																												
	人数(人)	54,842	—	51,005																																																												
	稼働率(%)	65.4%	75%	63.3%																																																												
A	B	C	D																																																													
<p>(6)付随業務</p>	<p>▽ 広報業務</p>		<table border="1" data-bbox="1252 1814 1436 1848"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	B	C	D																																																									
A	B	C	D																																																													

▼広報

①事業広報との連携強化

公演・イベントの周知、チケット販売促進や、施設入館者数の目標達成を目指し、情報誌等の印刷物やホームページ、SNS等の多様な媒体を活用して、札幌市民交流プラザの機能や事業の広報を積極的に行った。

(1)地下鉄パンフレット広告

主要駅の地下鉄フリーパンフレットコーナーにて、情報誌「WAVE TIMES」や「PLAS」、主催公演チラシ等を配架した。

(2)協賛広告枠の活用

札幌文化芸術劇場hitaruオフィシャルスポンサー企業の広告協賛等を活用し、地下鉄大通駅コンコース及び地下街オーロラタウン、丘珠空港、市内大型スーパーマーケット、路線バス車内等において動画の放映やチラシの配架、ポスター広告の掲示等を行った。

②広報印刷物の制作

(1)情報誌「WAVE TIMES」

札幌市民交流プラザの情報誌「WAVE TIMES」を4回(5月、8月、11月、2月)発行し、区役所等の市内公共施設や関係団体へ送付したほか、公演・イベント会場等でも広く配布した。

(2)イベントスケジュール冊子「PLAS」

札幌市民交流プラザを構成する3施設の公演・イベントを掲載するスケジュール冊子「PLAS」を6回(5月、7月、9月、11月、1月、3月の各月20日)発行し、区役所等の市内公共施設や関係団体へ配布した。

(3)「創成おさんぽMAP」

近隣地域のにぎわいを醸成するため、札幌市民交流プラザメンバーズ会員向け特典提供店を紹介する地図形式の冊子を作成し、メンバーズ(DM会員)に送付したほか、協力店舗や札幌市民交流プラザ館内各所で配架した。また、利用促進のため、SNSを活用した「#おさんぽMAPキャンペーン」を新たに実施した。

③ホームページ

(1)ホームページの改善・SNSの活用

ホームページを通じて、主催事業や貸館公演などのイベント情報を随時発信し、広く札幌市民交流プラザの周知を図るとともに、英語ページも作成し、外国人向けに情報発信を行った。ウェブアクセシビリティへの対応にも留意し、JISX8341-3:2016の適合レベルAA準拠を維持した。

また、Twitter、FacebookといったSNSも活用し、即時性のある情報を発信した。

・ホームページアクセス数

「WAVE TIMES」「PLAS」の発行、ホームページのリニューアルやSNSの活用、各種パブリシティでの広報展開により、プラザ内で行われる主催事業等の告知を行いチケット販売促進につなげた。

公式ホームページやSNS、情報誌での情報発信を行い、広くイベントや施設について広報に努めている。メンバーズの会員やスポンサーも数多く集めており、本市の要求水準を満たしているものと認められる。

	<p>▼利用促進</p> <p>①施設利用に関するチラシの発行 札幌文化芸術劇場hitaru及び札幌文化芸術交流センター SCARTS諸室の貸館利用促進に向け、地元興行主との情報交換を密にするほか、「ご存じですか？プラザの貸室使い方いろいろ」を配布して会議や練習での利用を促した。</p> <p>②会員制度 (1)会員制度の募集及び運営 主催公演のチケット先行発売や公演情報の提供などを特典とする会員制度「札幌市民交流プラザメンバーズ」を運営。令和4年3月31日までにWEB会員38,674人、DM会員734人、計39,408人の会員を集めた。 (参考)令和2年度:WEB会員27,979人、DM会員877人、計28,856人 (2)会員特典 ・メールマガジン配信(WEB会員向け、原則1ヶ月に2回) ・ダイレクトメール送付(DM会員向け、原則奇数月) ・hitaru主催公演のチケット先行発売 ・プラザ内カフェ・レストランでの優待 ・近隣のホテル・飲食店等での各種優待 ・施設見学会の企画(新型コロナウイルス感染拡大防止のため不開催) ・避難訓練コンサートの企画(新型コロナウイルス感染拡大防止のため不開催) ・リハーサル見学の実施(令和3年10月2日(土))「Kバレエカンパニー『シンデレラ』」</p> <p>③協賛制度の募集及び運営 札幌文化芸術劇場hitaruの主催共催事業の充実を目的とする「hitaruオフィシャルスポンサー」制度を運営。 令和3年度のスポンサーとして、法人98社、個人46人、計144件(現金協賛9,187万円、広告協賛3,030万円相当)の協賛を獲得した。</p>	<p>利用促進チラシの配布や会員向け特典を充実させるなど、安全な施設利用の促進に取り組んだ。</p>													
2 自主事業その他															
<p>▽ 自主事業</p> <p>施設の賑わいの創出とともに寛ぎの空間を提供することを目的に、カフェ「MORIHICO 藝術劇場」及びレストラン「DAFNE」を営業。令和3年度より、レストラン「DAFNE」にてお節の販売を開始したほか、さっぽろ創世スクエア管理組合にも協力を仰ぎ、創世スクエアオフィス棟に入居する企業にも新メニューのフライヤーをポスティングするなど、施設全体で新たな客層の開拓に力を入れた運営を行った。</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p>	<p>施設との連携を図りながら、宣伝・集客に力を入れた営業を行うことができた。今後も、来館者のニーズに配慮しつつ、より店舗の認知度を高め、施設の賑わいの創出に努める。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">カフェ・レストランについては一定の集客により、プラザの賑わい創出に貢献しているほか、自主事業に係る経理も適切に行われている。お節の販売など、新規開拓に向けた取組も見られ、経営努力が認められた。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">その他 業務委</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	カフェ・レストランについては一定の集客により、プラザの賑わい創出に貢献しているほか、自主事業に係る経理も適切に行われている。お節の販売など、新規開拓に向けた取組も見られ、経営努力が認められた。				その他 業務委				
A	B	C	D												
カフェ・レストランについては一定の集客により、プラザの賑わい創出に貢献しているほか、自主事業に係る経理も適切に行われている。お節の販売など、新規開拓に向けた取組も見られ、経営努力が認められた。															
その他 業務委															

<p>▼ 市内企業等の活用 施設の管理運営に必要な再委託業務について、概ね札幌市内に事業所を有する企業に発注した。</p>	<p>再委託業務について市内企業への発注を行うなど、市内企業の活用に努めた。 また、福祉施設・団体への発注を行い、福祉施策の推進に努めた。</p>	<p>委託時に地元企業や福祉施設の活用を意識的に行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>
<p>▼ 福祉施策への配慮 広報用封筒の制作作業を、近隣の福祉施設に発注した。 また、設置している自動販売機のうち1台を、札幌市内の社会福祉団体に依頼した。</p>		

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	施設を利用する主催者および主催事業の来場者へアンケート用紙を配布するほか、館内にアンケート台を設置。施設・設備の使い勝手の良さや、職員対応等に対する意見・要望の把握に努めた。
結果概要	貸館利用者・主催事業の来場者の施設に対する総合的な満足度は93.8%、職員対応の満足度は96.3%であった(「満足」「おおむね満足」「普通」合計)。 また、貸館利用者の96.6%が「また利用したい」と回答した。 全体回答数:3,207件
利用者からの意見・要望とその対応	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも清潔な施設で使用しやすい ・スタッフが親切で対応が良い ・WEB予約ができるようにしてほしい ・キャンセルが90日前というのは長すぎる。→令和4年度より一部変更 ・Wifiが使用できると良い→4階控室利用者が使用できるよう整備済

新型コロナウイルス感染拡大に伴う休館や、開催事業の中止が続いた事からアンケート回収数は減少した。
利用者アンケートの中で要望の多かったWifiについて、4階の控室に整備し利用できるようにした。
コロナ禍以降は受付カウンターにアクリル板の設置、貸室の鍵や貸出物品の都度消毒等、感染防止対策に努め、利用者が安心して利用できるよう努めた。
・変更・取消期限について改訂予定

A	B	C	D
「総合満足度」及び「職員の接遇に関する満足度」は、本市の要求水準である80%を大きく超えている。アンケート回収件数3,207件は、本市要求水準10,000件を下回っているものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響と考えられる。 アンケートで寄せられた意見に対する改善も行っており、本市の要求水準を超えている。			

4 収支状況

▽ 収支

(千円)			
項目	R3年度計画	R3年度決算	差(決算-計画)
収入	1,340,926	1,590,085	249,159
指定管理業務収入	1,325,574	1,576,665	251,091
指定管理費	1,031,145	1,189,542	158,397
利用料金	178,607	200,343	21,736
その他	115,822	186,780	70,958
自主事業収入	15,352	13,420	▲ 1,932
支出	1,380,566	1,351,285	▲ 29,281
指定管理業務支出	1,360,769	1,336,554	▲ 24,215
自主事業支出	19,797	14,731	▲ 5,066

新型コロナウイルスの影響による施設利用制限はあるものの、当初計画より貸室稼働率が上昇したため、利用料金収入が大幅に増加した。
支出については、事業運営の経費削減に努めた結果、収益の減少幅を補うことができた。
また、全貸室でのネット接続を可能とするなど利用者

A	B	C	D
貸室稼働率上昇により収入が大幅に増加したことに加え、新型コロナウイルスの動向を注視しイベント周知の範囲を最小限とする等、支出の抑制に努めたことで、当初計画に比べ純利益が増加したことは評価できる。今後も、安定的な施設運営に努めてまいります。			

収入-支出	▲ 39,640	238,800	278,440
利益還元			0
法人税等			0
純利益	-39,640	238,800	278,440

▽ 説明

▼ 指定管理費について、今期は令和2年6月～令和3年10月分の施設キャンセルに係る補填金を受けたことにより、増収となった。

▼ 収入については、新型コロナウイルスの影響による施設利用制限はあったものの、一定条件下で公演の収容人数制限が50%→100%へ解除されたこともあり、公演の実施件数が増え、当初計画より貸室稼働率が上昇したため、利用料金収入が大幅に増加した。

▼ 支出については、事業打合せにオンライン会議を用いることで旅費を削減、イベント周知においてもコロナの状況を鑑み範囲を最小限としたことで、印刷物等の費用削減に努めた。

▼ 上記の費用削減に努めつつ、オンライン会議目的での貸室利用の増加に伴い、全貸室でのネット接続を可能とするため、4階貸室に専用wifiを増設、3階貸室にLANの増設工事を行い、より快適で充実した施設となるよう環境整備を図った。

ニーズに応えるための環境整備を図った。

図った。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

当団体の財務状況等は、債務超過、累積欠損の状態になく、自己資本比率が50%以上のため、経営の健全性が保たれており、安定経営能力が維持されている。

適 不適

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

- ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対処した。
- ▼ 情報公開請求はなかった。
- ▼ オンブズマンについては、案件は生じなかった。
- ▼ 暴力団関係については、案件は生じなかった。

適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】

総合評価

来年度以降の重点取組事項

<p>【管理運営事業】 昨年度に引き続き、コロナ禍においても安心・安全に利用いただける施設となるような管理運営を徹底することができた。 貸館事業においては、コロナ禍の影響により、引き続き施設の新規受付一時停止や収容人数の制限等が生じ、依然として平常時とは異なる運用・対応が求められることとなった。しかし、館や利用者の感染対策が定着したことで、利用件数が増え、劇場・クリエイティブスタジオ・練習室等の利用率は、目標に概ね近い数値まで回復することができた。 また、財団全体で勤怠管理システムを導入し、職員の勤怠管理の効率化を図ることで、安定した施設運営に資することができた。</p> <p>【主催事業】 ・札幌文化芸術劇場 多面舞台と最新の舞台機能を生かした質の高い舞台芸術に親しむ場を市民に提供し、文化芸術に関心をもってもらいたい様々な事業を展開することができた。地元ダンサーやスタッフの力を集結したhitaruバレエプロジェクトプレ公演、北海道出身のバレエダンサー熊川哲也率いるKバレエカンパニーによるhitaruでの初公演、宮本亜門演出 モーツァルトのオペラ「魔笛」などの大型公演の他、コンテンポラリーダンス、能、映画、演劇など多様なジャンルの文化芸術を市民が享受する機会を継続して提供し、若手ダンサーやアーティスト等の育成にも取り組むことができた。 劇場で実際に鑑賞する公演だけでなく、バレエ、フラメンコ等の有料アーカイブ配信、現代美術家によるインスタレーションの無料動画配信、市内中学2年生を対象としたバレエの配信鑑賞など、コロナ禍における新しい鑑賞機会を市民に提供した。 新型コロナウイルスの影響により中止、または会期を短縮せざるを得ない事業もあったが、全国公立文化施設協会等のガイドラインに基づいた感染対策を講じ、北海道・札幌市の実施基準を遵守した事業運営を行った。 主催事業の来場者満足度は93.8%(令和3年度13事業平均)と非常に高い結果となった。</p> <p>・札幌文化芸術交流センター 「一人ひとりの創造性をささえる」、「あたらしい表現の可能性をひらく」、「すべての人に開かれたアートとの出会いをつくる」という3つのミッションのもと、大学との連携協定による事業展開や中高生と作家のワークショップなど次世代を担う人材育成に寄与するとともに各事業を通してさまざまな文化芸術活動をつなげていく役割を果たした。 リモート時代のテクノロジーに向き合う4名のアーティストが新作を展示した「遠いだけか、このあたりか」展、北海道教育大学や札幌大谷大学との連携コンサートや札幌を代表する劇団千年王國の公演、札幌文化団体協議会やSIAFラボとの連携事業など、質の高い芸術鑑賞機会を幅広く市民に提供するだけでなく、他施設、他団体と連携することで、市民の活動の場を広げ、関係構築を図ることができた。</p>	<p>【管理運営事業】 未だコロナ禍の終息の見通しが立たないが、2年間のコロナ禍で培った運営のノウハウを活かし、実効的な感染対策を継続するとともに、状況の変化に即して適切に対応することで、引き続き安定した運営を行っていく。 また、貸館事業においては、利用者の利便性向上や、さらなる利用率向上を目指し、インターネットでの仮予約の導入、貸館申込手続きの省力化の取組などを行っていく。</p> <p>【主催事業】 ・札幌文化芸術劇場 これまで札幌では実現できなかった大規模で質の高いオペラやバレエ公演などの鑑賞機会を引き続き提供していくとともに、第2期指定管理期間においては、創造型劇場の取組を更に推進するため、市内で活動する実演芸術団体、芸術系大学、アーティスト、舞台技術者と共に北海道・札幌発の実演芸術を創造する「hitaruオペラプロジェクト」、「hitaruバレエプロジェクト」を始動する。令和4年度に第1回公演が行われる「hitaruオペラプロジェクト」、令和5年度に第1回公演が行われる「hitaruバレエプロジェクト」については、鑑賞の裾野を広げる関連事業の展開、プロジェクトを支える人材の育成や持続可能な体制づくりも含め、関係各所と緊密に連携して準備を進めていく。 また、クリエイティブスタジオでは、質の高い様々なコンテンツの事業を継続して展開することで、市民が舞台芸術と出会い、興味を深めていく機会を創出していく。 なお、次世代を担う青少年(中学2年生)を対象としたバレエ鑑賞事業については、豊かな感性を育む事業として引き続き実施するとともに、大学等との連携により舞台芸術を支える様々な分野の人材育成にも注力していく。 コロナ禍において新たに着手した配信事業についても、様々な層の市民に芸術文化に触れてもらう手段として引き続き継続していく。</p> <p>・札幌文化芸術交流センター アートを介し、ひと・もの・ことをつなぐという使命にもとづき、これまでの事業の積み重ねによって札幌のアートセンターとしての役割を一定程度達成できたことから、次のステップとして集中と選択により事業を精査し、より強く札幌の各アート分野・機関を結びつけ牽引する「クリエイションハブ」としての役割の強化を図る。 具体的には、「クリエイションプロジェクト」、「メディアアーツシリーズ」、「サポート事業」、「連携事業」、「パブリックリレーションズ」の5本柱に事業を体系化し、各事業で扱う課題やテーマを相互に関連付けていくことで、センターとしてより大きな主題に向かっていく。 特に新規事業となる「クリエイションプロジェクト」は、開館5周年に向けた当センターの主幹事業に位置づけられるもので、初年度は主題設定や共同企画者に関するリサーチと企画・検証、次年度に事業を展開する2か年計画となる。</p>
--	--

<p>また、SCRATSの施設を有効活用し市民と共同で事業を実施する公募企画事業により、市民に対して芸術文化の創造と表現の場を提供・支援することができた。</p> <p>相談サービスは、オンライン対応への積極的な取り組みにより相談件数は昨年より2倍以上となるなどコロナ禍で様々な悩みを抱えるアーティスト等に対して活動支援を行い、札幌のアートセンターとして確実に市民の認知度を向上させることができた。</p> <p>さらに、当年度より助成金の交付事業を開始し、札幌市を拠点に活動する優れた文化芸術活動への費用の支援を通じて、札幌市の文化芸術の振興と発展に寄与することができた。</p>	<p>画で実施する。当センターが有する調査力、連携力、高い専門性を生かした企画力を最大限に発揮し、札幌の地域性を踏まえた独自の事業を創出する。</p> <p>また、これまで各事業単位で検討・実施していた広報・アーカイブ分野については「パブリックリレーションズ」として統合し、個々の事業の周知だけではなく、総体である札幌のアートセンターとしての知名度向上を図り、市民の文化芸術活動を多角的に支える存在となることを目指していく。</p>
---	--

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な管理運営が行われている。</p> <p>新型コロナウイルスの影響で施設利用制限を設けた期間もあったものの、貸室の利便性向上・感染対策の徹底に努め、利用状況回復に寄与した点は評価できる。</p> <p>各主催事業では、これまで北海道での実施が困難であった大型公演を数多く行い、市民が質の高い文化芸術に触れる機会を創出するとともに、中学生の公演招待や大学との連携等、若い世代に向けたアプローチに工夫がみられる。そのほか、ウェブアクセシビリティにも留意し、利用しやすいホームページの実現に努めている点も評価できる。</p> <p>多様な文化芸術の鑑賞機会を創出し、本市の施策に沿った文化芸術の拠点としての役割を果たしている。</p>	<p>経営面においては、引き続き経費削減、効率的な運営に努めること。利用者アンケートで多くの要望が上がっているインターネットでの練習室予約導入に向け、システムの正確性保持の徹底及び利用者の利便性向上のための環境整備に努めること。</p> <p>新型コロナウイルス感染症については、引き続き国や北海道が示すガイドラインを踏まえた十分な感染症対策を講じること。感染症に不安を抱える施設利用者の声を拾い上げ、施設運営に活かし、今後も多くの方が安心して利用できる魅力ある文化芸術の創造・発信の場としての役割を担っていただきたい。</p>